

カレーで地域をつなぐ市民活動

『横須賀カレーラボ』 横須賀みんなのカレー食堂



令和5年度市民協働推進補助金

活動報告会資料

2024年8月2日 横須賀カレーラボ

村尾 直人

横須賀みんなのカレー食堂の活動について

①「こども食堂」 無料で美味しいカレーを提供 スタートより4年目の活動に入りました

(こども・保護者とも完全無料 公募・予約制 安浦コミュニティセンターにて月1～2回実施)



予約制とすることで、席と食事が用意されている安心感のある「こども食堂」を運営。カレーとその周辺食材に特化することで、効率的に美味しい食事を毎回提供することができた。

年間でのべ700名近い参加者を受け入れる事業となり、地域での認知度もあがり、近隣の子供たちの居場所となることができた。活動の賛同者も増え、地域のニーズにこたえる事業となった。

横須賀みんなのカレー食堂の活動について

②「おとな食堂」（対象は大人・完全無料 公募・予約制 安浦コミュニティセンターにて月1回実施）



地域と関わりの少なくなった『おとな』と生きづらさを抱える地域の人たちの居場所作りを行うことを目的として毎月1回開催。年間でのべ148名もの参加者を受け入れる事業となり、地域の住民交流と高齢者の孤食防止、生きづらさを抱える方々の居場所を作ることができた。失業中の方や休職中の方、(心身ともに)疾患のある方なども楽しく参加し交流できる場となった。地域の民生委員の方や本庁第二包括支援センターとも連携して事業を運営することが出来た。新事業「話を聞く食堂」への発展を果たすこともできた。

横須賀みんなのカレー食堂の活動について

③「みんなの食堂」（地域の方が対象 完全無料 公募・予約 コミュニティセンターにて月1回実施）



高齢者と若者、子育て世代が同じテーブルを囲み、食後に語らう地域の居場所を作る事業

「こども」「おとな」と区分せず、幼年から高齢者まで誰でも参加できる食堂を開催。年間で600名を超える方の参加があった。多様な人が参加する食堂への参加を望む子育て世代と、さらに地域で支援活動を行う方が交流できる場所として開催した。対象を問わず誰でも参加できるスタイルが、地域の方の参加機会を増やし、ボランティアや賛同者を多く集めることができるようになった。（参加後にボランティアを始めた方が多数います）

横須賀みんなのカレー食堂の活動について

④「話をきく食堂」（地域の方が対象 完全無料 公募・予約 月4回(週1回実施)）



社会的な孤立や、地域や周囲の方と接点が少なくなつた方、生きづらさを感じている方を対象として一緒に食事を取りながら、参加者の「話をきく」食堂を事業として開催。もともとは代表が横須賀市の電話相談事業『こころの電話』の相談員をしていることから、食事とあわせて実施する事業をスタートした。傾聴の技法を活用し、「話をきき」相談する方の存在を肯定することにより、自己肯定感を高めることができる。社会とのかかわりが少ない方は『孤食』傾向があるが、その解消にもつなげる企画として実施。年間に46名の参加者があつた。

④ 【イベント・PR活動】 市民にカレーを無料提供

- ・8月20日 キッズデー出店 お菓子とカレー商品配布 参加者80名
- ・11月3日 三春ふれあいまつり出店 カレー商品などを配布 参加100名
- ・11月8日 横須賀中央郵便局でのPR出店 カレー80食提供
- ・12月23日 カレー提供 トヨタ車展示場でPR カレー250食提供
- ・2月10日 シルバーふれあいまつり出店 カレー100食提供

人が集まる場所で開催されるイベントにてPR・カレー提供を行うことで多くの方に活動を知っていただき、通常の開催の食堂事業への来場者UPと従事メンバー獲得に大きな効果があった。また活動を知った方々から定期的な協賛・食材提供の申し出も多数あり大きなPR効果を生んだ。コストのかかる事業ではあるが、実施に見合う反響があった。

(各食堂への参加者の増加、ボランティア希望者の増加、支援者増加)



（令和5年度 活動の総括） 市民協同補助金事業最終年（3年目）

達成できたこと

- ① 公益性の高い活動を、質・量とも高い状態で開催できたこと
- ② 年齢性別問わず、地域の方に「食事」と「居場所」を提供できた
- ③ 代金・料金のない無料食堂として運営することで、善意ある支援者が集まり長期的に活動を運営していく基盤を作ることが出来た

※R6年度は材料費の一部を負担いただくこと、支援者からの援助で継続しています

